

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070901485		
法人名	医療法人 友愛会		
事業所名	グループホームサンテラス		
所在地	福岡県福岡市博多区諸岡4-26-16		
自己評価作成日	平成23年1月25日	評価結果確定日	平成23年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

サンテラスは、建物の中に居ながら天窗からは日が射し込み、各居室や皆が集い団欒をするリビングにある大きな窓からは気持ちの良い風が吹き込む、その名前通りの温かいグループホームです。建物の雰囲気はもちろんです、いつも入居されている方の明るい笑い声、歌い声に溢れており、入居されている方々からの元気ももらって職員はいつもニコニコ元気よく笑顔で働いています。見学に来た方から「建物も雰囲気も明るいですね」と言って頂けることが、私達の一番の自慢です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体となる医療法人や歯科医院、老人保健施設、訪問看護ステーションが隣接しており、日々の健康管理や医療活用において、本人、家族の安心と信頼を得ている。また、法人内の接遇委員会が機能しており、尊厳やプライバシーを大切にしながら日々のかかわりに反映されている。職員は入居者一人ひとりの全体像の把握に努め、その方にあった対応や声かけが行われており、入居者の方々からも、ユーモアあふれる返答があり、入居者、職員、それぞれ活き活きとした姿を見ることが出来る。地域行事への参加や併設するデイサービスとの交流、運営推進会議を活用した地域への情報発信等も行われており、今後は、地域における福祉拠点としての活動の広がりも十分に期待できる事業所である。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年2月8日		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
<b>理念に基づく運営</b>				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域でその人らしい生活」を理念に掲げ、実践に繋げる為に職員全員が名札と共に理念を記載したものを携行し、各フロアに理念を掲示し、さらに会議の際は唱和することで再認識をしながら実践につなげている。	法人理念のもとに、地域密着型サービスとしての視点を含む、4項目の方針を掲げている。各所への掲示や名札とともに携行する等、理念の共有、浸透を図っている。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の体育祭(今年は雨天にて中止)や文化祭へ入居者・職員共に参加をしている。また、地域の保育園(今年は百日咳の為中止)との交流や中学生福祉体験の受け入れを行っている。	地域行事への参加や、ボランティア、福祉体験学習の受け入れ等の交流の機会がある。毎月第3金曜日には介護相談窓口を設ける等の活動を行っており、今後の展開が期待される。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月第3金曜日午前中を介護相談窓口として地域に開いている。運営推進会議の委員に認知症サポーターの資格を持つ民生委員があり、運営推進会議を通じ民生委員と共に認知症の人への理解を地域へ広めるよう努めている。	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて外部評価の結果を報告し、今後の取り組みについて話し合いを行っている。	定期的に会議が開催され、家族、町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員等の参加がある。資料や会議録が整備され、会議の重要性を認識されている。運営報告と共に、地域の行事案内や行政による出前講座も行われており、情報発信の場としても活用されている。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターに運営推進会議への参加を呼びかけたり、地域包括支援センターへ施設便りやパンフレットの配布や持参をし、市より出前講座に来ていただくなど市町村担当者と連絡を密にとっている。	運営推進会議において、保健所からはノロウィルスについて、その他「高齢者を狙った犯罪」等、行政関係者による出前講座が開催されている。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が研修に参加し、後日伝達講習を行うと共に月に一度身体拘束について会議をし、職員が回避出来るようにしている。各フロアに「身体拘束ゼロの手引き」を配布し、職員がいつでも閲覧出来るようにしている。	日中は施錠していない。外部研修への参加や伝達講習を活かし、身体拘束についての共有認識を図っている。センサー使用についても、必要性や抑制につながっていないかどうかの検討が行われている。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が研修に参加し、後日伝達講習を行うことで管理者を含む全ての職員の意識を高めるように努めている。管理者は普段から入居者や職員の様子に注意し、両者の訴えに耳を傾け虐待の早期発見に努めている。	

福岡県 グループホーム サンテラス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者を含む全ての職員が研修に参加した職員からの伝達講習によって、学ぶ機会を持っている。家族から成年後見制度利用の相談があった場合は、医師へ診断書の依頼など支援を行っている。	現在、権利擁護に関する制度活用に向けて、関係者間での連携を図っている。研修参加及び伝達研修が行われている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には丁寧に説明をすることはもちろん、質疑応答には時間をかけ、入居前に不安や疑問を解決出来るよう努めている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族と話す際やケアプランの説明時に意見や要望もお伺いしている。施設には無記名の意見箱を設置している。苦情と思われる内容には、苦情に関する常設の窓口を設け、マニュアルを設置し、早期改善に努めている。	運営推進会議や家族が参加する行事を通じて、家族との関係の構築に努めている。家族からの意見や要望を大切に受け止め、改善や次のステップへの情報として活かされている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度行うミーティング時に意見や提案を聞く機会を設けている。	毎月のミーティング等を通じて、職員意見の意見の表出を求め、検討を行っている。例えば災害訓練の充実に向けた提案があり、次回より実践される予定となっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修に行く機会を出来る限りも設けられるように勤務調整をし、特に入職初期には定期的に面談の機会を設け、ストレスとなっていることを取り除けるように配慮し、離職防止に努めている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除することはない。例えば、働く職員が資格取得の為に勤務希望を出す際には最大限考慮をしている。	職員は常勤採用となり、介護福祉士の資格習得や、外部研修参加へのサポートを行っている。会議は、夜勤者以外、全員参加できる勤務体制をとり、職員自らホームの運営に参画している認識を持てるよう取り組んでいる。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員の誰かに必ず外部の人権研修に参加してもらい、その後職員に伝達講習を行うことで人権教育、啓発活動としている。	行政等の主催する研修に参加し、伝達研修が行われている。法人全体として、入居者の人権尊重を大切に捉え、様々な視点からの人権教育を行っている。	

福岡県 グループホーム サンテラス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修や勉強会の参加希望には、勤務の調整をし、出来る限り参加出来るよう取り組んでいる。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加した際に同業の受講者と情報交換をし、互いの施設の見学などを企画している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や相談の時点で質問には丁寧に答え、見学にはなるべく本人様にも来て頂く様促している。何度でも見学には対応し、不安を解消して要望には耳を傾け、その上で申込みをして頂いている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や相談の時点で質問には丁寧に答え、要望に耳を傾けている。家族がサービス導入に至るまでの経緯や抱えていた悩みなどにも耳を傾けている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ず御本人と家族と両者の意向を確認し、それに応じた支援を医師や居宅介護支援事業所と連携しながら提供できるよう努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬い、共に生活する家族のような気持ちと相互扶助の精神で日々入居者と接している。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際などに日常生活の様子や本人様の思いを細かく伝え、又、ご家族の思いも汲み取り円滑な関係が築けるよう努めている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様がこれまで大切にされてきたご先祖様のお墓参りや法事又はご家族様、ご友人との交流の継続を支援している。	家族や友人・知人が来訪した際には、心とむ雰囲気大切にしている。馴染みのパン屋さん・美容院に家族と出かけたり、正月・お盆等の家族との関わりを支援している。	

福岡県 グループホーム サンテラス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援 に努めている	常に利用者様の所在には気を付け、気配り目配り を心がけている。時に応じて人間関係において コミュニケーションの仲介を行い円滑になる様に 支援をしている。行事等にお誘いし、参加して頂 く。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も遊びに来て頂けるような雰囲気 作りを心掛けている。玄関を開放しており、遊 びに来られたら気軽に相談に応じたり、こちらか ら現在の様子を尋ねたりしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	ケアプラン作成時や見直しの際に、利用者・家族 双方に要望を聞いて、日常のコミュニケーション でも思いや希望の把握に努めている。	各担当者により、センター方式を活用したアセス メントが実施されており、定期的に更新している。 日々のかかわりを通じて、思いや意向の把握に努 め、カンファレンス等において、本人本位の検討や 状況共有が図られている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	入居時の面談で情報を収集し、センター方式にて 生活歴を把握し、利用者・家族とのコミュニケー ションからも情報を収集し把握に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	利用者との日頃の関わりから個々のニーズや生 活のリズムを理解し、出来るだけ総合的に把握 するように努めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	利用者と家族から要望を聞き、カンファレンスに より職員からもアイデアを出し合い介護計画を作 成している。	本人、家族の意向や要望を確認し、計画はわかり やすい文言で、簡潔明瞭に表記されている。計画 内容に基づきケアプラン実施表が作成され、日々 の支援につなげている。定期的にモニタリングや 個別のカンファレンスが行われ、職員の気づきや 医師の助言等を計画に反映させている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、利用者の言動やどのような介護 を実施したのか、誰もがわかりやすいように記入 している。		

福岡県 グループホーム サンテラス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の時など、必要に応じ看護師や職員が付き添い、状態報告し、医師、看護師、介護職が連携しグループホームでの生活を継続できるよう支援している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域自治会長・民生委員・地域包括支援センターなどと意見交換を行い、ボランティアへの呼びかけを行っている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望により、かかりつけ医があり、家族の付き添いもあり、また必要に応じ職員が付き添い、状態報告を行い適切な医療が受けられるように支援している。	入居者、家族の希望もあり、隣接する母体医療法人をかかりつけ医とするケースが多い。診察時には体温表等を持参し、正確な情報提供に努めている。また、認知症専門医の往診があり、日頃の関わり方等についての指示を受けている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置し、日常の健康管理や受診の付き添いを行っている。また利用者・家族が体調の変化など気軽に看護師に相談していただけるように声掛けをしている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、医療機関へ情報提供を行い、入院中も医療機関の情報交換し、早期退院に向けて連携している。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者及び家族の意見を確認しながらかかりつけ医、看護師と連携し職員間でも対応方針を話し合い支援に取り組んでいる。	入居時に「看取りに関する指針」に基づき説明が行なわれ、同意を得ている。状況の変化に応じて家族や医師を交えた話し合いを重ね、法人内の連携も活かしながら、本人、家族が安心して過ごせるよう方針を共有している。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていないが、マニュアルを全職員に配布し、積極的に研修に参加し、伝達講習を実施し実践力の向上に取り組んでいる。		

福岡県 グループホーム サンテラス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な災害を想定し、防災訓練を実施し、避難方法や経路の確認をしている。災害受診監視盤や消火器の使用方法を指導し、迅速・的確に対応できるよう取り組んでいる。	法人としての合同避難訓練を、年2回実施している。運営推進会議の議題としても検討され、入居者も参加する、ホーム独自の訓練についても計画し、近々に実施予定となっている。地域主催の防災訓練への参加も予定している。	運営推進会議の議題としても取り上げられ、地域の理解や相互の協力体制の構築に向けた取り組みが行われています。法人内も含め、連携強化に向けて継続的に働きかけが行われることを期待します。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねないように、人生の先輩として敬意を払い言葉遣いに留意し、介助の際もさり気ない声掛けを行うように努めている。個人的な話をする際は居室にて行うようにしている。	法人内に接遇委員会が設置され、対応や言葉かけ等についての検討を重ね、職員間での共有認識を図っている。その方にとっての時間の流れや、一人になれる場所等にも視点を持ちながら、個別の配慮に努めている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いつもされているからと同じ事ばかりを勧めず、複数選択肢の1つとして何かを促すように心がけている。新しいことを勧めて、楽しんで頂けるようにする。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活のリズムもあるが、1人1人の気持ち・体調などを把握した上で周囲との軋轢や摩擦が生じないように対応している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	室温やその日の体調を考慮しつつも、利用者様に違和感や不快感を与えないような服装や身だしなみが出来るよう支援を行っている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ADLを考慮した上で配膳から洗い物までを手伝って頂き、出来ない部分は職員が行うようにしている。メニューを読み上げ、それに因んだ話をする等して食事を楽しくして頂けるようにしている。	昼食前には、クイズや早口言葉等で口腔体操が行われている。1階厨房での調理となり、受け取りに行く事も日課となっている。食器への盛り付けや、食後の食器洗いにそれぞれ力を発揮してもらっている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	既往歴等を鑑み、医師との相談の上、水分をあまり摂取しようとされない方は好きな飲み物を提供するなど工夫をし、水分量を確保している。疾患から特に水分量のチェックが必要な方は、記録にてその都度水分量を周知出来るようにしている。		

福岡県 グループホーム サンテラス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にまず入居者に声掛けを行い、自分で口腔ケアをして頂く。その後、職員が確認をして必要な部分は介助をしている。必要な方には、同法人内のデンタルクリニックに口腔内のクリーニングを依頼している。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗があり介助が必要な方には、その方がトイレに入ってからさり気なく声を掛け、中へ入り介助をする。その際も羞恥心に配慮し、気負いさせないように声掛けを行いながら介助を行う。	個別の排泄パターンの把握に努め、プライバシーへの配慮を行いながら、さりげない支援が行われている。退院後の自立支援へ向けた細やかな配慮と取り組みにより、成果につながった事例もある。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師と相談し、必要な方には飲水量を計測し、飲水量が少ない方にはお好きな飲み物を勧めている。さらに活動量を増やす為にフロア内を往復して頂くなど個別に予防策を立てている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調と最終入浴日を加味し、その中で最大限希望に沿うよう支援している。	毎日入浴準備を行い、希望やタイミングに沿って、柔軟に対応している。毎月の行事担当者が各地の温泉の入浴剤を使用したり、柑橘類を浮かべるなど、入浴を楽しむ工夫がある。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない程度に、希望時に午睡の時間を設け、適度に休息の支援を行っている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイリングし、いつでも閲覧できるようにしている。また、処方の変更や用法・副作用など確実に申し送りし、変化の有無に関わらず細かく入居者の様子を記録に残している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野や一人一人の能力を把握して、それに合った役割・手工芸を一緒に行い、経験や知恵を發揮してもらえるように努めている。		



福岡県 グループホーム サンテラス

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>その日の体調や天候を考慮しながら、利用者の希望で散歩やドライブで外出出来るよう支援している。</p>	<p>週に1回は買い物の日とし、スーパーや薬局に出かけている。近隣には公園もあり散歩コースとなっている。1階のディーサービスの送迎用の車で、全員で遠出のドライブにも出かけている。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人や家族の希望で管理能力のある利用者には、電話代・嗜好品を買えるお小遣い程度のお金を持っていただいている。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話はフロアに1台自由に使えるように設置しており、居間から離れた所に設置して他人居者に会話が聞こえないように配慮している。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>天気の良い日は、居間に日差しが降り注ぐので日光浴を希望される方の為にソファを設置。又、有線があり、CDもかけられるのでその場面に応じた音楽を楽しんで頂いている。</p>	<p>リビングは大きなガラス窓からの採光で日光浴が出来、床暖房が設置されている。季節の飾り物や、散歩の際に摘んだ花が活けられている。各所にソファや椅子が設けられ、それぞれの方にとってのくつろぎの場所がある。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間としての居間のテーブルに入居者が集い談笑する光景が日常にある。独りになりたい方には、居間の中に沢山椅子やソファが置いてあるので各々が好きに過ごして頂けるよう工夫をしている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自宅より馴染みの家具などを持参され、仏壇を持ち込まれる場合もある。出来る範囲内でご自身の居心地を最大限良くして頂けるよう配慮している。</p>	<p>ベッド以外は、馴染みの箆笥や机などが持ちこまれ、趣味の書籍や写真等、その人らしく個性ある居室づくりが行われている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下の手すりはもちろん、トイレには大きくトイレと表示を付け、安全性はもちろん自立を促す工夫をしている。</p>		